「教育現場の情報保障をめぐって」

シンポジウム開催にあたって

～当事者の立場より～

2020年１月13日

文字通訳研究会理事　平川 美穂子

（駒澤大学非常勤講師）

１　ご挨拶

２　当事者としての経験

３　教育現場での情報保障の現状と課題

４　登壇者の方々のご紹介

1　ご挨拶

「すべての児童生徒・学生が自分に
合った支援を利用して学ぶ」ために

２　当事者としての経験

当事者としての経験

０歳～　ほとんど言葉を話すことがなかった

３歳　　聴覚障害が判明

東京教育大学附属聾学校幼稚部入学

（現：筑波大学附属聴覚特別支援学校）

小学５年　近くの小学校に３カ月間のテスト期間を経て
インテグレーション

当時の附属校ではインテグレーションを推進

中・高校　情報保障は無し　「特別扱いはしません」

大学での取り組み

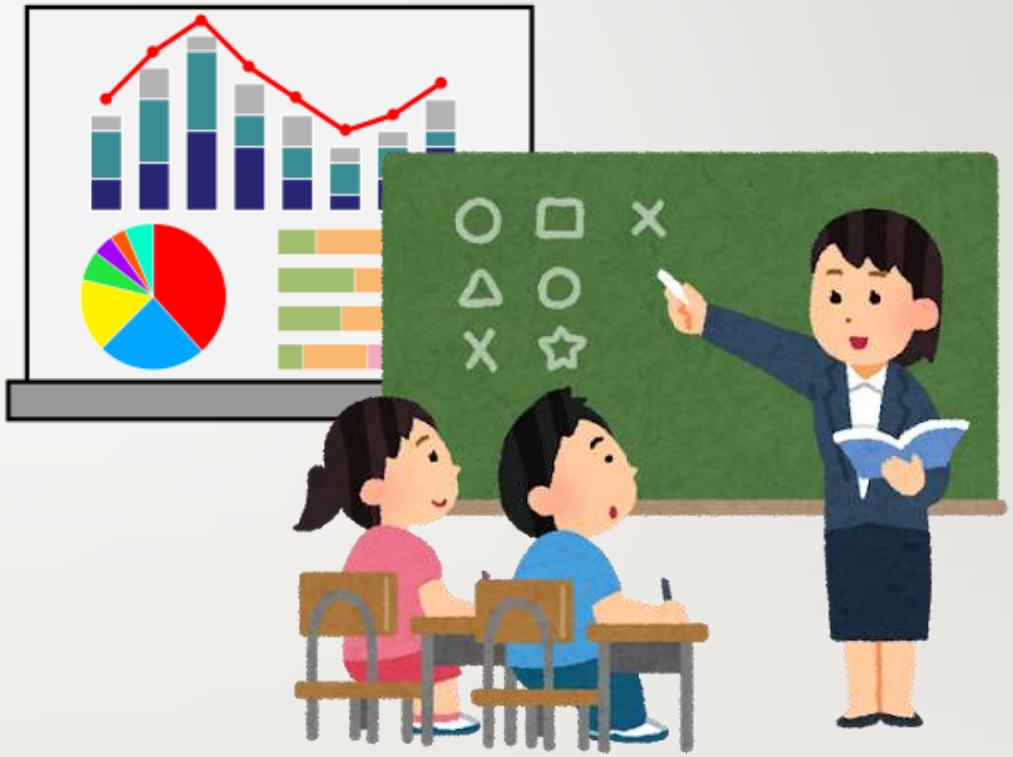
筑波大学・大学院

手話サークルの学生が交代で手話通訳

「関東聴覚障害学生懇談会（関東聴懇）」の「学ぶ権利」を求める活動に参加

当時の活動がいろいろな形で実を結び、現在の情報保障につながっている。

３　教育現場での情報保障の現状と課題



現状　～大学・短大・高専～

大学・短大・高等専門学校における支援の実態調査（2018年度）

学生全体数　約320万人

障害のある学生　33,812人（全体の1.05%）

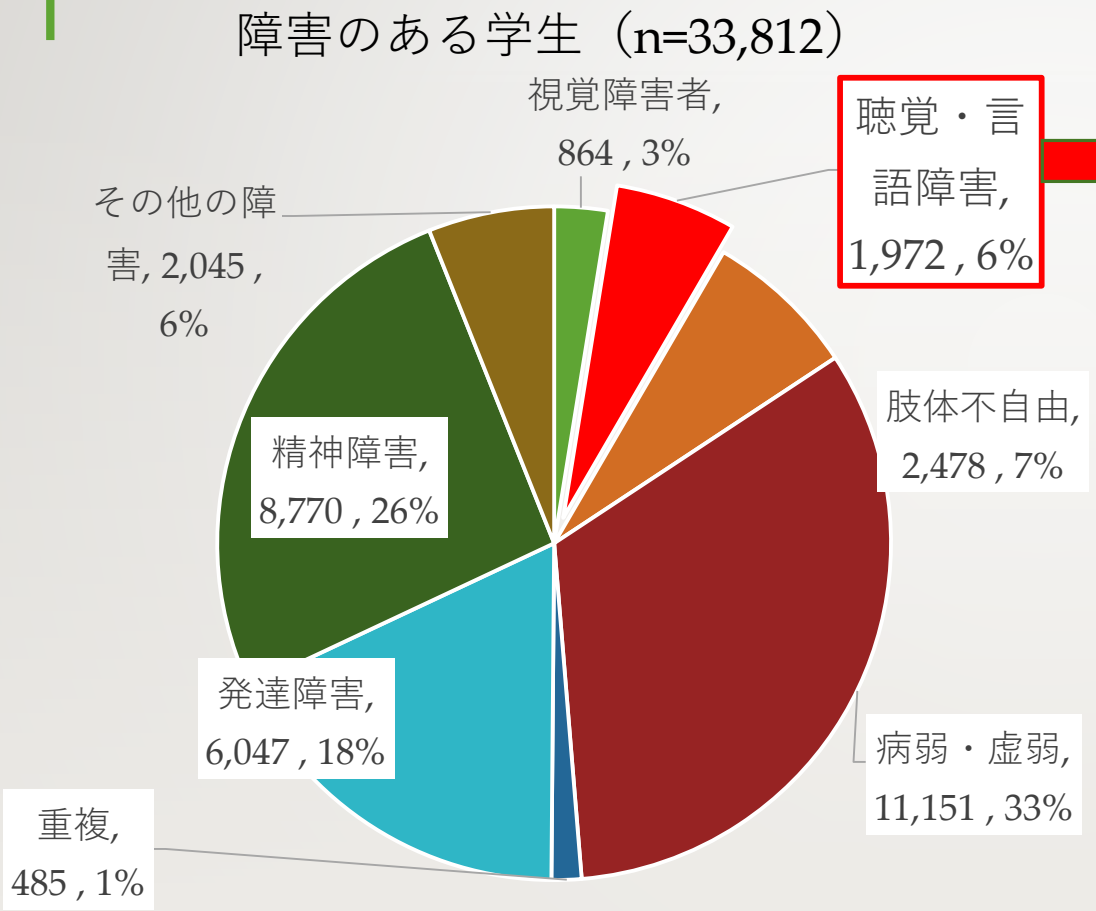
内　聴覚・言語障害　1,972人（障害学生の5.8%）

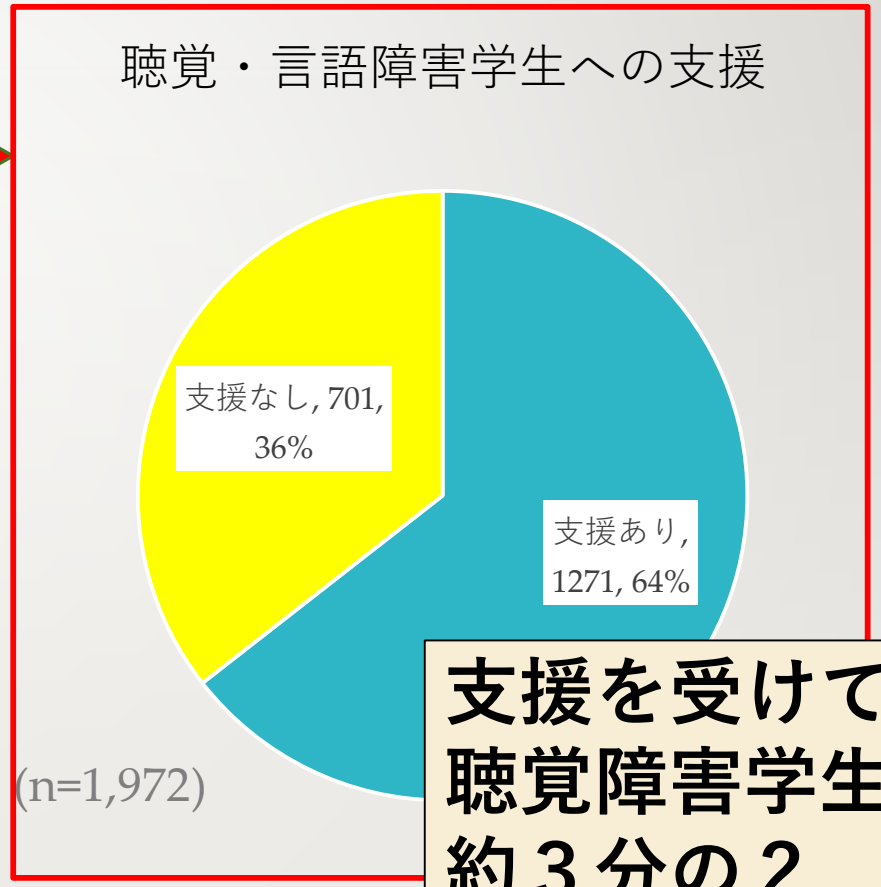
支援を受けている学生　17,091人

内　聴覚・言語障害　1,271人（1,271/1,972　64.5%）

出典：独立行政法人日本学生支援機構
「平成30年度（2018年度）障害のある学生の修学支援に関する実態調査」

聴覚・言語障害学生数のデータ





支援を受けている聴覚障害学生は約３分の２

出典：独立行政法人日本学生支援機構
「平成30年度（2018年度）障害のある学生の修学支援に関する実態調査」

現状　～幼稚園・小学校・中学校～

特別支援学校在籍数

	学校数	学級数	児童生徒数
聴覚特別支援学校（単一）	86	1,767	5,546
聴覚特別支援学校（複数障害）	（数字は明記されていない）		
計	116	2,818	8,269

特別支援学級（難聴）在籍数

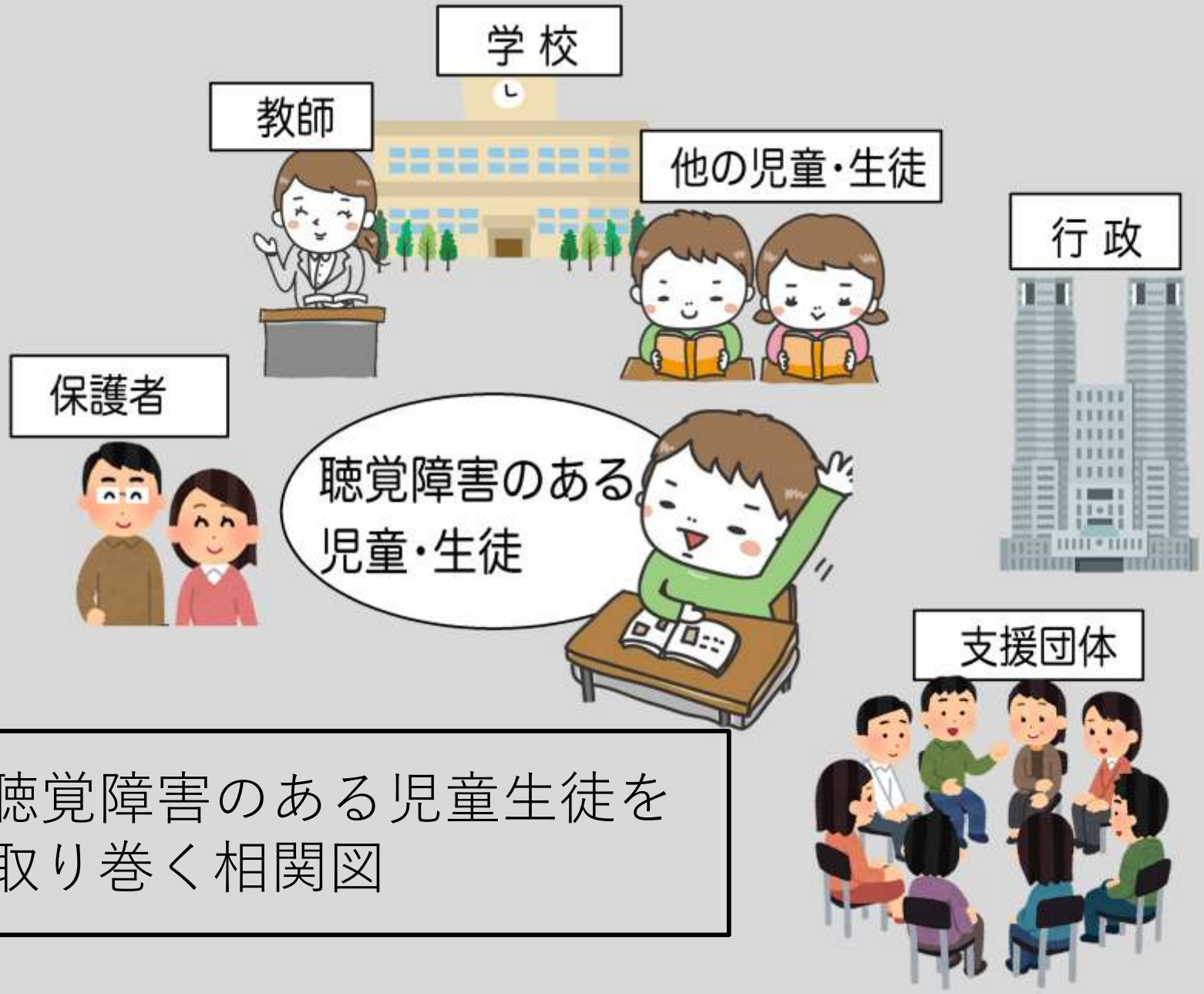
	学級数	児童生徒数
小学校	793	1,242
中学校	329	470

通級（難聴）在籍数

	児童生徒数
小学校	1,750
中学校	446

地域の学校に在籍し、特別支援学級に通級していない児童生徒数は不明
調査対象に、高校は含まれていない

出典：文部科学省「特別支援教育資料（平成29年度）」



聴覚障害のある児童生徒を
取り巻く相関図

学 校

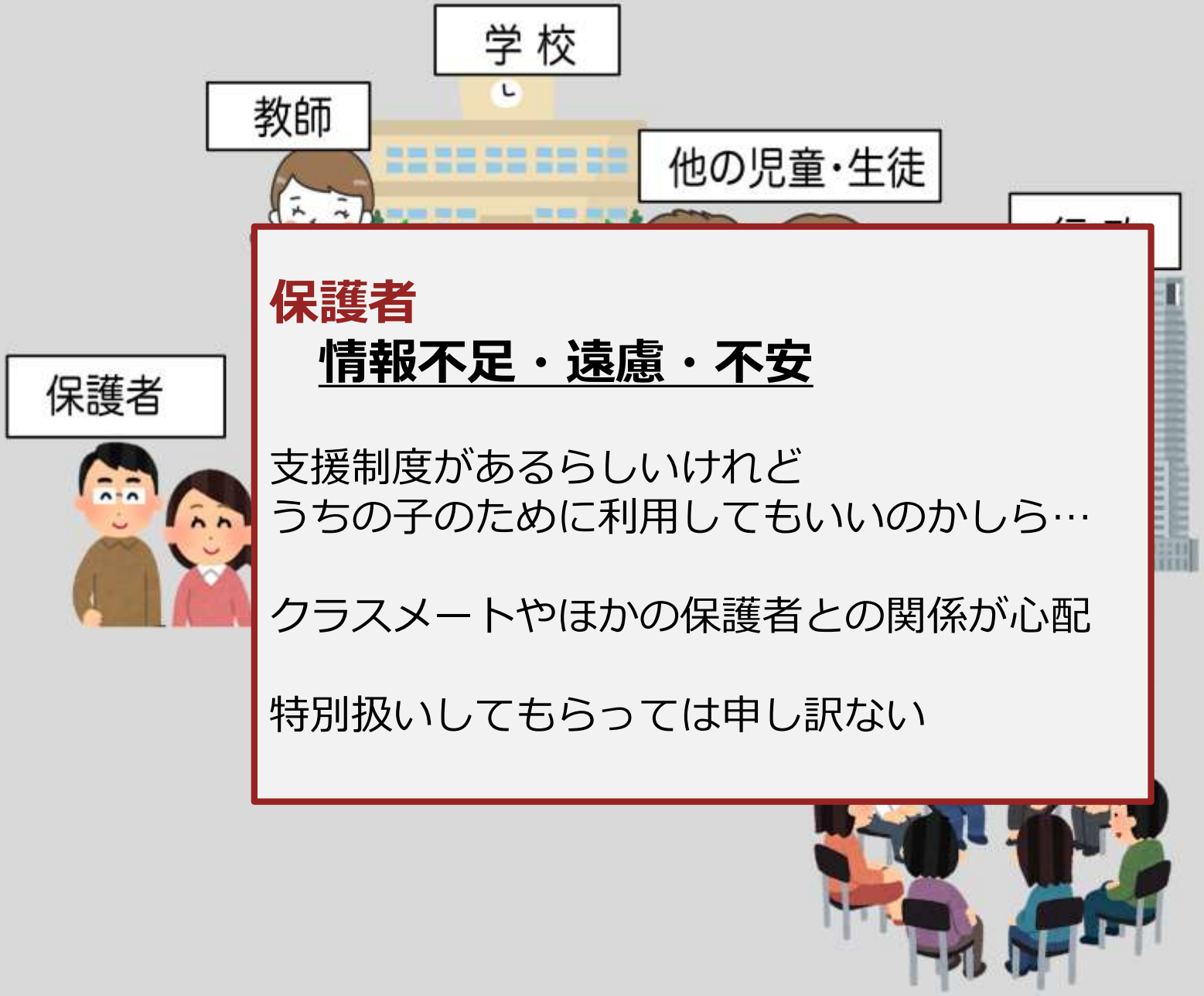
保護者

聴覚障害のある児童生徒
孤立感、大きなストレス

授業が理解できない

クラスメートとの情報共有ができない
不安、孤独感などストレスを抱えている

自分のニーズを把握できていない、表現できない
相互理解がむずかしい



保護者

情報不足・遠慮・不安

支援制度があるらしいけれど
うちの子のために利用してもいいのかしら…

クラスメートやほかの保護者との関係が心配

特別扱いしてもらっては申し訳ない

学 校

保護者

教師

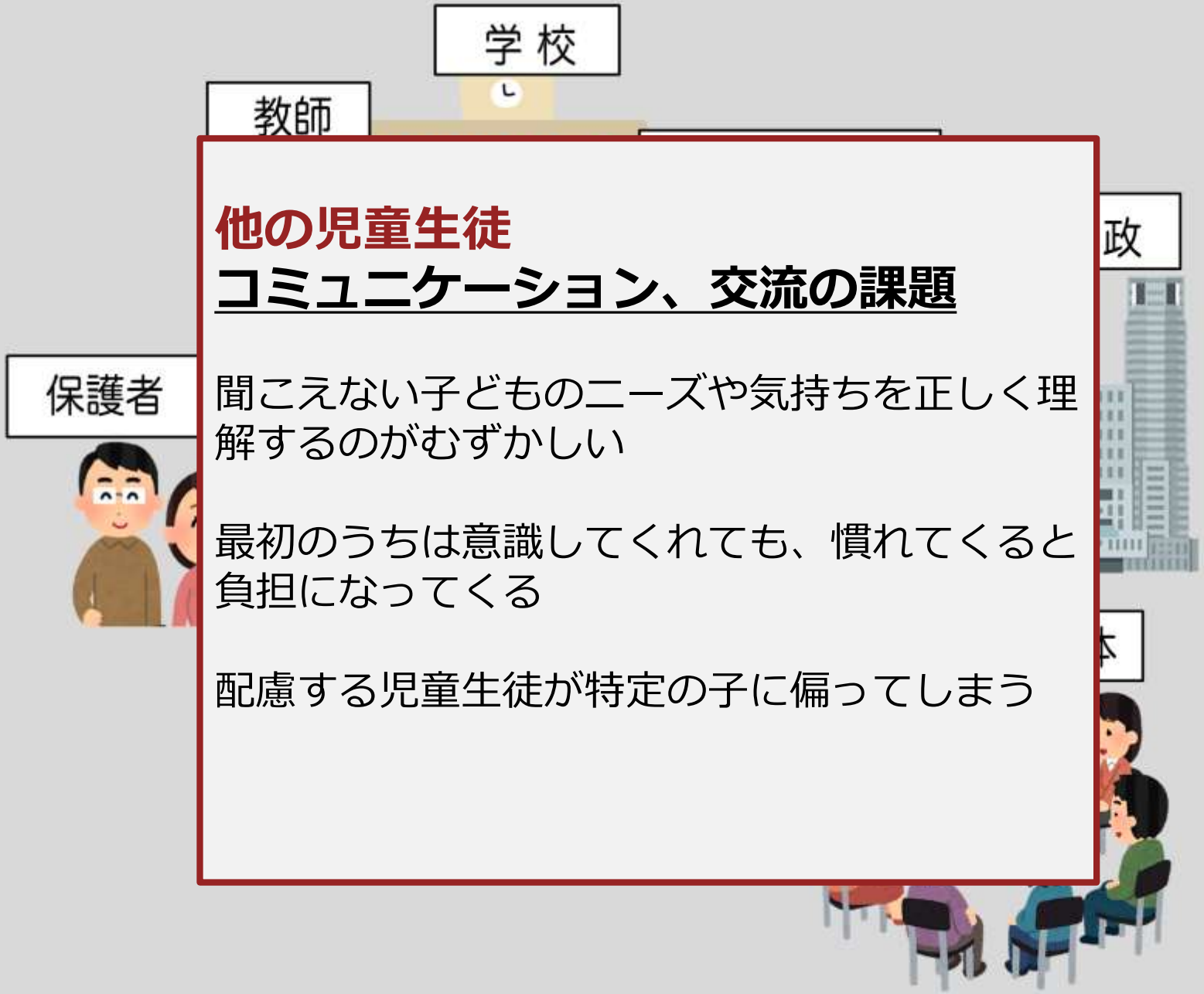
個別に対応

ニーズを満たせているか？

板書を増やす、授業内容や連絡事項を資料にして配布するなどの工夫

聴覚障害のある子どもとの会話が十分にできず聞こえる子どもの通訳に頼ってしまう

UDトークなどの音声認識を導入…費用がかかったわりに変換率が良くない

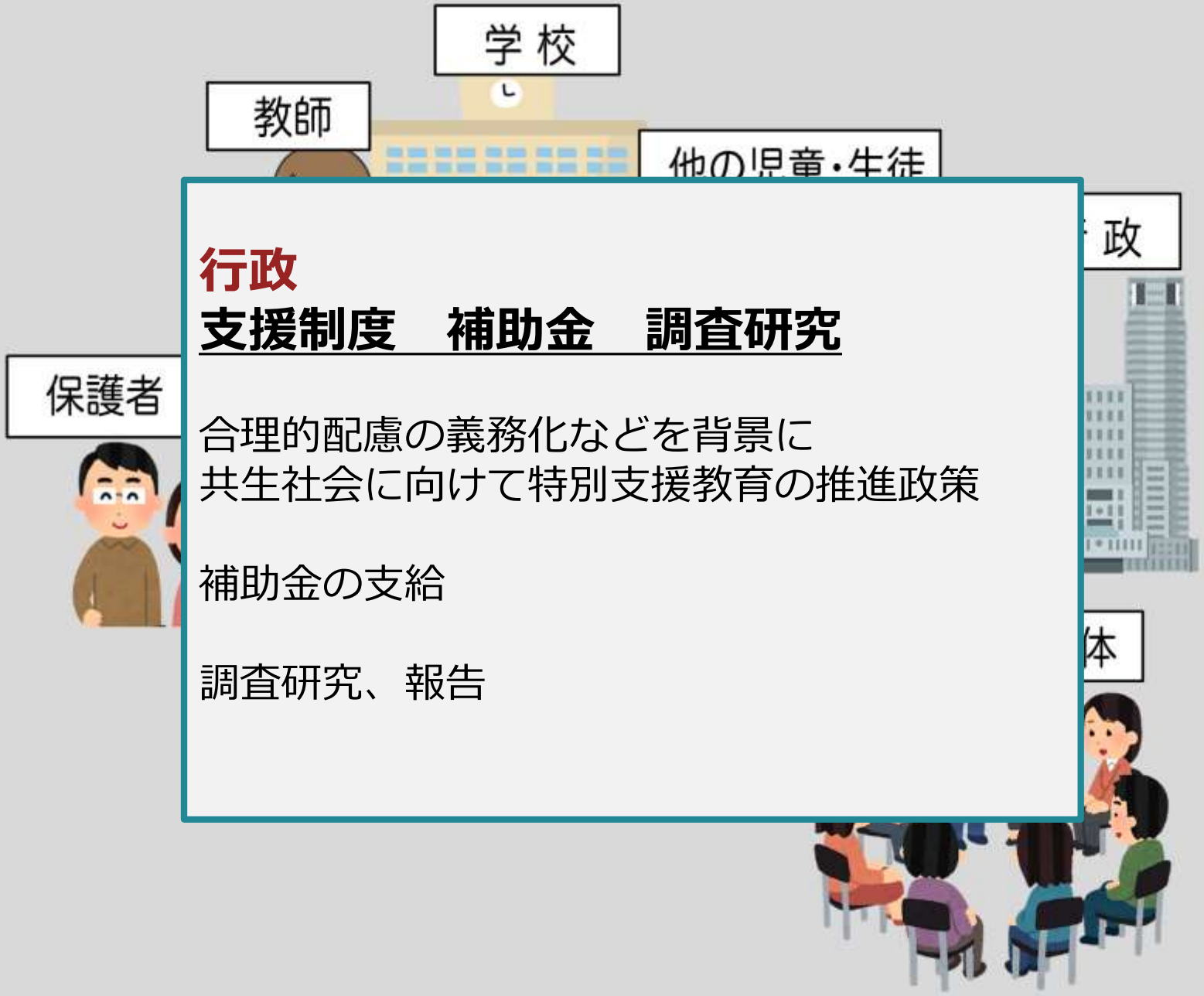


他の児童生徒
コミュニケーション、交流の課題

聞こえない子どものニーズや気持ちを正しく理解するのがむずかしい

最初のうちは意識してくれても、慣れてくると負担になってくる

配慮する児童生徒が特定の子に偏ってしまう



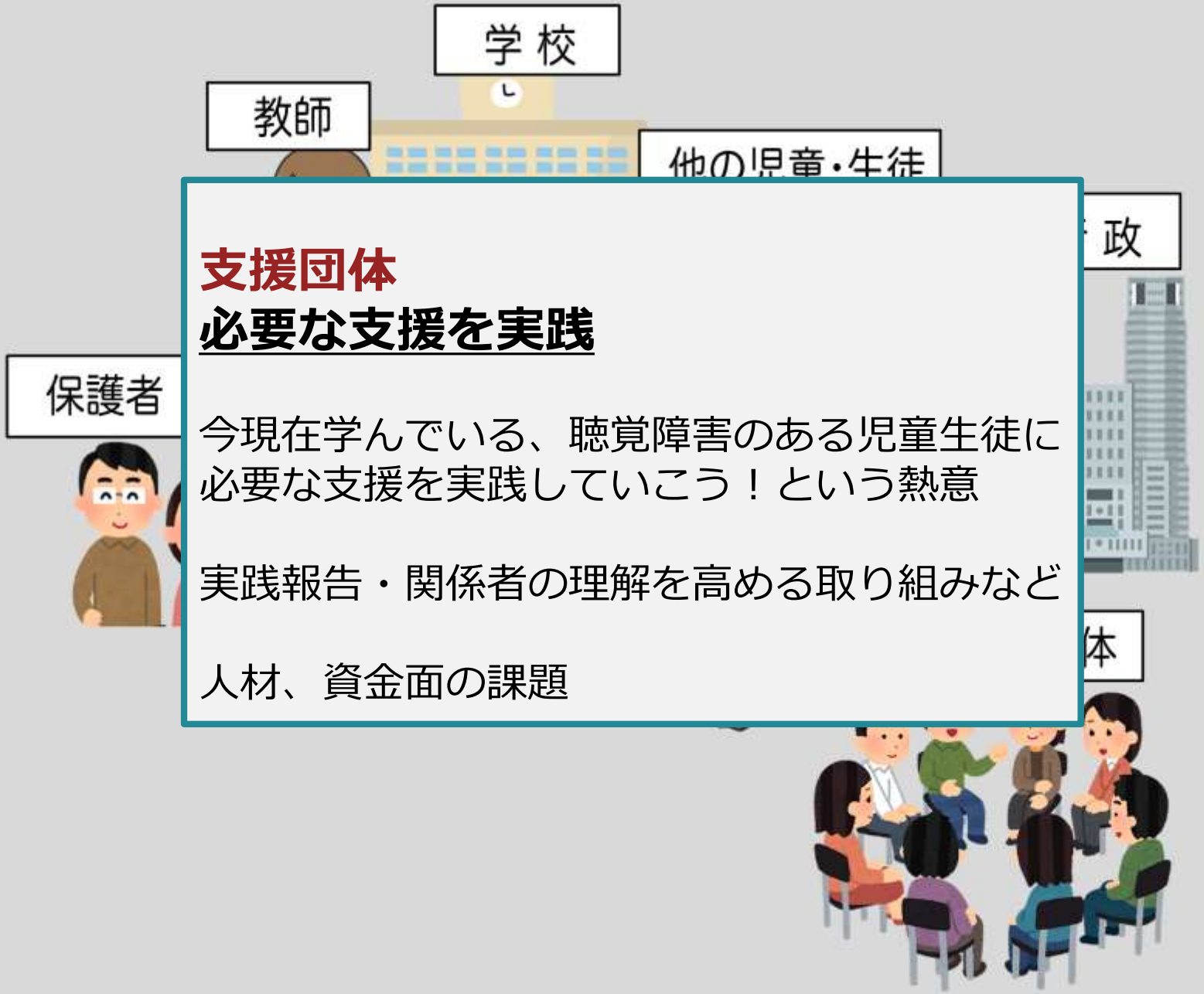
行政

支援制度　補助金　調査研究

合理的配慮の義務化などを背景に
共生社会に向けて特別支援教育の推進政策

補助金の支給

調査研究、報告



支援団体

<u>必要な支援を実践</u>

今現在学んでいる、聴覚障害のある児童生徒に必要な支援を実践していこう！という熱意

実践報告・関係者の理解を高める取り組みなど

人材、資金面の課題

現状と課題について～当事者として望みたいこと～

「すべての児童生徒・学生が自分に合った支援を利用して学べる」

- 授業内容を伝えるだけでなく、聞こえる児童生徒との関係づくりのできる情報保障・支援
- 心理面のケア、コミュニケーション能力面の配慮を含めた総合的な支援が確立されること
- 多様なニーズに対応した情報保障・支援ができること

４　登壇者のご紹介

登壇者

庄司 美千代 氏

文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課

特別支援教育調査官

※初等中等教育…幼稚園から高等学校段階までの教育

- 元ろう学校の教諭でいらっしゃいます。
- 行政の立場から障害のある児童生徒等への支援についてお話しいただきます。

登壇者

玉田さとみ氏

バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター（BBED）

- ろうの息子さんをお持ちです。
- 明晴学園の設立、そして遠隔情報支援を行うNPO バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センターに携わっていらっしゃいます。
- 保護者の立場から、支援者の立場から、これまでの活動で道を切り開いてきたお話をいただきます。

登壇者

岡田孝和（おかだ・のりかず）氏

明治学院大学 学生サポートセンター
障がい学生支援コーディネーター

- 大学の学生支援コーディネーターを担当なさっています。
- パソコンノートテイク支援、遠隔からの情報保障、音声認識技術、補聴援助技術など新しい技術に精通していらっしゃいます。
- 今日は音声認識を中心として事例をもとに解説していただきます。